

Finatext、新聞記事とSNSを分析した 新たな投資情報サービスを提供

株式会社Finatext (代表取締役: 林良太、以下、Finatext)は、このたび、新聞記事と金融・投資に関するソーシャル・メディア(SNS)データ解析結果を活用した新たな投資情報サービス「FinatextNewsWatcher(フィナテキスト・ニュース・ウォッチャー)」(以下「News Watcher」)の提供を2018年7月より開始予定であることを発表します。(https://newswatcher.finatext.com/)

■背景

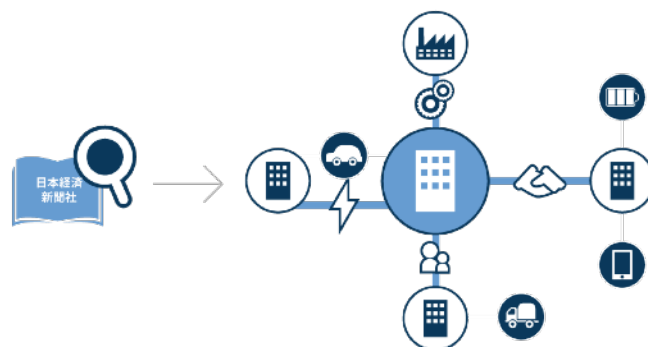
毎日の新聞記事やSNSで発信される情報など、私たちは膨大な量の情報に囲まれ、全てを把握して分析することは困難な状況にあります。そこで、投資家が信頼性の高い情報を効率的に取得し、市場のトレンドを識別できる判断材料を提供しようと「News Watcher」を構想しました。最先端の自然言語処理技術とビッグデータ解析技術により、膨大なテキストデータを投資家が効率的に情報収集できる最適な形にし、最終的には投資パフォーマンスの向上に役立つ判断材料を提供することを目指します。

「News Watcher」は、最先端の自然言語処理技術とビッグデータ解析のノウハウをもつFinatextと日本を代表するクオリティーペーパーである株式会社日本経済新聞社(代表取締役社長: 岡田直敏、以下、「日本経済新聞社」)が共同開発した、新しい投資機会を切り拓くための投資アイデアを提供する情報です。

■サービス概要

Company Graph Watcher (カンパニー・グラフ・ウォッチャー)

新聞記事の膨大なテキストから企業に関する情報を収集し、企業と企業の関連性や企業と市場テーマ・トピックとの関係を抽出、解析します。その関連度を数値化して提供することで、企業と企業の関連度や市場テーマとの関連度や繋がりを「見える化」します。



Market Buzz Watcher (マーケット・バズ・ウォッチャー)

新聞記事の膨大なテキストと、SNSに散らばるテキストを収集、解析し、企業や市場テーマの話題度を数値化します。新聞報道、SNSそれぞれに頻出するキーワードと一緒に数値を利用することで、イベントやテーマ等の新聞とSNSという異なるメディアの反応を「見える化」します。



現在、金融マーケットでは、ビッグデータ解析、機械学習技術、自然言語処理技術などの技術革新に基づく新たな運用手法や投資ツールの開発が活発に行われています。こうした流れは、今後ますます勢いが増すことが想定されます。そうした金融マーケットでのビッグデータの解析を通じて、データを活用した新たな価値を創造するニーズの高まりに応え、投資家の情報収集力、活用力の強化をサポートするサービスの提供を引き続き目指してまいります。これからのFinatextの取組みにご期待ください。

◆サイト：<https://newswatcher.finatext.com/>



◆株式会社Finatext について

Finatextは、2013年12月に東大出身者を中心に次世代ウェルス・マネジメント・サービスを提供することを目指し設立された会社です。リテール向けにモバイルサービスや投資関連のアルゴリズム等を提供する Finatextと、機関投資家向けにビッグデータ解析サービスを提供している Nowcast(2016年8月統合)、次世代証券プラットフォームの確立と、個人投資家のそれぞれのライフシーンで投資が可能なモバイル端末をメインとした証券会社スマートプラス（2017年3月設立）の3社を軸に、国内外（台湾、マレーシア、ベトナム、イギリス）で事業を展開しています。今回のサービスを共同開発した日本経済新聞社は、Finatextの株主のうちの1社です。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社Finatext 高橋充

〒102-0083 東京都千代田区麴町2-8 MLC 麴町ビル4階

Mail: info@finatext.com

HP: <https://finatext.com>